

看護師養成課程を経た養護教諭の実践に生かされている特性に関する研究

飯 森 ひかり 井 口 佳 乃

保健学部看護学科看護養護教育学専攻4年

目的

看護職の経験を経た養護教諭を対象にした学生の先行研究(2018)から、看護職の経験が子どものヘルスニーズへの支援に生かされていることを知り、看護師養成段階で培われた看護の能力も養護教諭の実践に生かされている、また、弱みも存在すると考えた。そこで、本研究は、養護教諭の看護師養成課程で培われた看護の能力が、養護教諭の実践において生かされている強み、または弱みとなる特性を明らかにすることによって、養護教諭の実践に生かし、キャリア発達の基礎資料とすることを目的とした。

方法

看護師免許を有し看護師の職務経験がない現職の養護教諭3名に対し、作成したインタビューガイドを用いて、「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業到達目標」(日本看護系大学協議会, 2018)及び「看護学士課程で養成する養護教諭のコアコンピテンシー卒業到達目標」(同, 2017)を参考に、半構造的インタビューを実施し、作成した逐語データを、質的記述的に分析した。なお、杏林大学保健学部倫理審査委員会の承認を得た(承認番号2021-9)。

結果

看護の能力が養護教諭の実践に生かされている特性の内容は、コード26件、サブカテゴリー19件により、8件のカテゴリー【子供が一人の人として生きることの尊厳に向き合おうとする】【系統的・網羅的・効果的なアセスメントが自然にできる】【人との双方向的な関わり合いの中で相互成長する】【危機を察知するセンサーが鋭い】【看護の視点と教育の視点を結び付けて、見識を深める】【根拠を行動の軸にする】【専門職としての自覚と誇りが原動力に

なっている】【子供をチームで支援する姿勢と方法を持っている】に分類された。また、弱みは、コードとして抽出されなかったが、集団を対象とした保健教育に対する苦手意識があることが語りとして得られた。

考察

結果から、看護師養成課程で培われた看護の能力が、養護教諭の実践に生かされていることが明らかになった。結果を詳細に検討したところ、看護師養成課程を経た養護教諭には、『子どもを全人的、多角的に捉える傾向』、『家族も支援の対象として捉える傾向』、『対象者と援助的関係を形成する力が培われる傾向』、『危機を察知して未然に防ごうとする傾向』、『看護の視点と教育の視点を結び付けて、支援の質を高める傾向』、『物事の本質を捉えて行動する傾向』、『専門職としての自覚と誇りを糧にする傾向』、『地域資源を活用する視野を持って子供を支援する傾向』があること示唆された。また、集団を対象とした保健教育に対する苦手意識については、今後の検討課題である。

本研究で得られた特性は、養護教諭養成課程を経た看護師の特性にもなることが考えられ、看護学と養護学を意図的に結び付けながら学ぶことの意義が示唆された。

謝辞

本研究にご協力くださった養護教諭の皆様、ご指導いただいた亀崎路子教授に心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 一般社団法人日本看護系大学協議会：看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標, 2018。
- 2) 一般社団法人日本看護系大学協議会養護教諭養成教育検討委員会：看護学士課程で養成する養護教諭のコアコンピテンシー卒業時到達目標, 2017。